

I 主題設定の理由

特別活動を通して

**自分、友だちを元気にする
学校、地域を元気にする**

今年度の研究テーマ

**夢や希望をもち、
よりよい人間関係を築く特別活動**

サブテーマ

**自分もよく、みんなもよい
～聞き合い、折り合い、分かち合い～**

1. 研究主題について

(1) 特別活動で元気に する人間関係 づくり

何かで
キラリと
輝く子

元気な姿を
伝えて
広げる

本校は、全校児童255名の小規模校である。学年全体の友だちのことを知っていたり、異学年の友だちと一緒に遊んだりする姿もよく見かける。男女の分け隔てなく、年齢を気にせずに幅広い関わり合いが深まるなど、小規模校の利点を生かすことができている。

学校生活をおくる中では、家族的な付き合い方が多くなり、人間関係が固定化されやすい一面もある。また、遊びや生活の中で、意見の衝突が起きるのはいつも同じ友だち同士だったり、思いを伝えられずに場の雰囲気の流れに流されたりしてしまう子どもたちもいる。

そこで、学校や学級の集団の中では、いつでも安心して生活をおくり、お互いに認め合う経験を積み重ねていくことで、“一人一人が何かでキラリと輝く子”に育ててほしいと考えた。

お互いに認め合うことで子どもたちは自己有用感をもち、自分の行動に自信をもって、自主的に活動し元気に生活をおくることができるようになる。学級内で、よりよい人間関係を築くことにより、一人から仲間へと元気が広がり、学校全体が元気になっていく。そして、学校や学級で経験してきたことを、地域のお祭りや盆踊り、老人会などで発表することで地域へ元気を伝えることができる。子どもたちは、地域の行事にも意欲的に参加するようになり、地域教育会議や学校推進会議などでも、自分たちの考えていることや思いを伝えることができるようになってきた。

特別活動で築きあげてきた、自主的・実践的な態度が、一人一人から学校全体へと広がることで、誰とでもよりよい人間関係をつくることができると考えられる。そこで自分たちで考え、行動し、人とつながることで、学校や地域を元気にしていくことができると、本研究の主題を「夢や希望をもち、よりよい人間関係を築く特別活動」とした。

(2)本校の特別活動 の特色

自治的な
能力・自主的
な態度を
育てる

クラブ活動
の時間の
確保

キラリコー
ナーの設置

朝の時間を
活かした
特活タイム

本校の縦割り班活動は、今まで学年を超えた人間関係づくりに取り組んできた。6年生を中心としたグループを全校で作し、それぞれの学年がお互いの役割を考え協力しながら活動を行っている。全校遠足や子どもまつりでは各学年がそれぞれのめあてをもち、グループごとの計画を立てながら、楽しく参加することができている。低学年のうちから、お兄さんお姉さんたちの話をよく聞くことが大切であることを、活動を通して感じている。高学年になるとグループ全員のことを考えた準備をすることで、責任をもった行動をとることができている。

委員会・クラブ活動も子どもたちからの提案による立ち上げから行い、各活動の計画を子どもと教師で話し合いながら実践を繰り返してきた。委員会活動やクラブ活動で実践してきたことを全校集会で紹介したり、毎月の計画やお知らせなどを新聞にまとめたりと、子どもたちがしてみたいと思ったことを大切にしながら活動に取り組んでいる。また、年間のクラブ活動の時間を立ち上げから20時間程度確保することで、子どもたちが自主的、実践的に計画しながら活動に取り組むことができている。そして委員会活動やクラブ活動、学校行事等で活動している姿を、子どもたちがお互いに知ることができるように掲示物にまとめたキラリコーナーを設置した。

3年生以上の子どもたちによる代表委員会では、年間を通して1つの児童会スローガンを考え、運動会や子どもまつりなどの行事を盛り上げるための工夫をしている。また、そのスローガンにむけて目標を立てて取り組んでいる。

特別活動を充実させるために朝の時間を活用した特活タイムを取り入れている。この時間では、学級会での計画・準備、係ごとの活動、委員会、クラブの準備、目標などのふり返りの時間として、各学級で計画的に活用している。

年間の教育課程の時間を編成する際にも、自然教室や修学旅行をすべて学校行事の時間として計上している。そのため、各活動では、子どもたちの自主的な態度を育てるためのねらいを設けた計画をすることができてきた。

Ⅱ. 研究内容

1. 研究の目的

(1) 学級の中での 子どもたちの 様子

縦割り班活動や委員会活動、クラブ活動などで6年生を中心に自主的に活動する子どもたちも、学級にもどると一人一人のよさが薄れてしまうことが多く見られた。積極的に発言ができなくなってしまうたり、自分の思いを他へ伝えることを苦手と思い込んでしまったりしている。これは、慣れ親しんだ仲間とともに育ってきたことで、関係が固定されて育って来てしまったことが一つの原因と考えた。

(2) 個の満足感と
集団の満足感

学級の中でお互いが、よりよい学級にしていこうと、創意工夫しながら学校生活をおくり、個の満足感と集団の満足感が高まることでよりよい学級生活が築かれると考えられる。

自分の思いが全体に伝わり、共有できる喜びを感じることで自己有用感を育み、個の満足感を得ることができる。

また、一人一人の思いが集まり、みんなで取り組みながら達成感を共有することで、集団としての満足感が高まってくる。

そして、個の満足感と集団の満足感が互いに高まっていくことで、「自分もよく、みんなもよい」と考えられる学級集団を築いていけると考えた。

(3) 学級会で築く
人間関係

そこで、まずは学級集団の中の一員であることを喜び、集団決定することの大切さに気付いてほしいと、本校では学級会を中心に重点的に研究を進めることとした。どんな場面でも、よりよい人間関係を築くためには、お互いの話をよく聞き合い、折り合いをつけた話し合いができることが、集団の中では必要な力であると感じている。そして、集団の一員として子どもたちがよりよい学級にしていこうと自主的に活動することで、お互いのことを考えたよりよい人間関係を築いていくことができると考えた。

(4) 学級会での
話し合い

学級会の中で子どもたちがそれぞれの思いを大切にしながら、友だちのことを思い、考え、話し合い、集団決定をすることで、よりよい人間関係を築くことができると考えた。

特にどのような活動に決まっても自分もよく、みんなもよい工夫ができる力を育てていくために、話し合いの柱立ては「どのように工夫するか。どのようにするか。」に重点を置いて考えてきたい。

(5) 聞き合い
折り合い
分かち合い

集団決定する際には、聞き合い、折り合いながら話し合いを進めていく。意見をまとめるときには自分もよく、みんなもよい意見でまとめられるように考えてほしい。

また、集団決定したことは、みんなで協力して活動に取り組めるような学級会を実践していく。みんなで共有しながら、一つのことに向かって取り組んでいく姿を分かち合いの姿としてとらえてきた。

実践に向けて活動する中で、お互いの活動を理解するだけでなく、協力・共有しながら解決していき、一つのことに向かってみんなで取り組んでいけるような姿を目指していきたい。

以下（次ページ）を本校では「聞き合い、折り合い、分かち合い」の姿として考える。

2. 研究構想図




3. 研究の経過

(1) なすことによつて学ぶ特別活動

研究をはじめた時には、何を話し合うのか、どうやって進めるべきなのか、司会グループの役割や助言の仕方など、いろいろなことがわからないということが多かった。学級会を経験することで、ただ話し合うだけでなく、めあてをもって、子どもたちがより切実感をもって学級のためになることを考えていくことができるようになってきた。

(2) 一年目の取り組み




子どもと一緒に
つくる
学級会

話し合いを行うと、意見を出す子の偏りが多く見られたり、活発に発表する子どもが話し合いの流れを決定したりと、「集団決定する力」が充実していないように感じられた。そこで一年目には「集団決定する力」を身に付けていけるよう、話し合いでは「何をするのか」を決定していくことから始めてきた。そして、一人一人が集団の一員であることを実感し、よりよい人間関係を築ける取り組みをしていきたいと考え、研究を進めてきた。

学級会での話し合いの基礎を職員全体で確認し、実践を繰り返してきた。子どもたちは自分たちで議題を考え、司会グループを中心に話し合いを進めてきた。決まったことが必ず実践できることで、子どもたちは話し合うことの楽しさを感じてきた。

教師は、学級会での話し合いの指導をどのようにして行っていくべきなのかを考え、話し合い活動を行ってきた。助言の仕方、板書の使い方、事前の準備など話し合い活動の基本から学び、実践を積み上げてきた。

(3) 実践から 見えてきたこと



集団決定
する力

話し合いの場では、様々な意見を聞き合い、他の意見と比べながら折り合いをつけ、集団決定する力を育てていくことを中心に研究を積み重ねてきた。決定したことを実践し、ふり返しを行うことで次に自分たちが話し合いたいことを考えてきた。その結果、学級会を楽しみにする子どもたちも増えてきた。

話し合いの時に多様な意見を比べ合い、お互いの意見を認め合いながら折り合いをつけることで、お互いのことを考えられるようになってきた。また、議題や提案理由、めあてを大切にしながら話を進めることができるようになってきた。みんなでめあてに立ち返りながら、集団決定する力が身に付いてきたと考えられる。

学級会の経験を重ねるごとに、それぞれの意見のよいところを合体させたり、お互いの意見の折衷案を出したりと、互いに意見を尊重しながら話し合いを進めることができてきた。失敗体験や成功体験を繰り返し、体験を次に活かしながら学級全員で取り組むことができるようになってきた。

(4) 二年目の 取り組み

今年度は、折り合う中で相手の気持ちや思いを理解し、それらを態度や行動で表すことを大切にしていきたいと考えた。一つのことに向かって、みんなで努力し、協力し合いながら解決し、やり遂げた後に達成感を分かち合いよりよい人間関係を築き上げていく。みんなで行き届くことで喜びや充実感などが得られるということを感じてほしいと研究を進めてきた。

話合いの場と事後の活動で子どもたちが、お互いのことを考えながら活動に取り組み、分かち合う姿を大切にしながら研究を重ねてきた。

4. 研究の実践

(1) 「どのように工夫をするのか」

「何をするのか」という話合いから、「どのようにするのか」を中心とした話合いを中心とすることで、どんなことでも実践に向けて、工夫や協力しながらよりよい学級にしていこうとする姿を目指している。

(2) 実践から見とる、分かち合いの姿

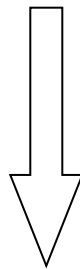
話合い活動の中で決まったことに向けて、一人一人が集団の中で自分の役割を考え、実践に向けて準備を進めていく。お互いに協力しながら、やり遂げた後に達成感を分かち合えるような人間関係を築き上げていく。集団の中にいることで喜びや充実感などが得られるということを感じてほしいと、準備から実践に向けた活動を中心に分かち合いの姿を見とっている。

学級会の流れと教師の手立て・子どもの活動や姿

〔 子どもの活動や姿 〕

- ・学級の諸問題への気付き
- ・切実感のある議題の選定

I 議題の選定

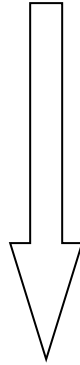


〔 教師の手立て 〕

- ・議題を募るための言葉かけ
(～したい。～つくりたい。～残したい。～解決したい。学級目標をふり返る など)
- ・議題箱の設置
- ・学級ごとに切実感のある議題の選定

- ・計画委員会との準備
- ・学級会カードの活用

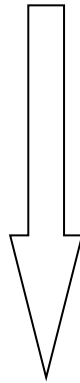
II 事前の活動



- ・学級会コーナーの設置
- ・計画委員会の準備
- ・「集める」意見の集約と分類整理
- ・計画委員会（司会グループ、提案者、教師）との事前の準備とシミュレーション
- ・板書の準備
- ・三段討議法による話合いの計画
- ・話合いの内容を「どのようにするのか」、「工夫はどうするのか」などを中心とした柱立て

- ・議題を受けて一人一人が考えた意見を聞き合う
- ・それぞれの意見のよいところを比べ合う
- ・話し合いの中で折り合いをつける
- ・「自分もよく、みんなもよい」ことを考えた意見を出し、折り合う
- ・折り合いながら導き出した全体の意見をまとめる

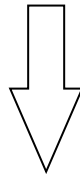
III 話合い活動



- ・確認と修正に徹する教師の助言
- ・司会グループだけではなく、全体への助言
- ・分類整理された板書の活用
- ・教師の助言で生きる子どもの発言の価値付け

- ・実践に向けた準備
- ・全体の中での、それぞれの役割の必要感と責任感をもつ
- ・協力してやり遂げる喜び
- ・集団の一員であることの実感
- ・分かち合いの姿

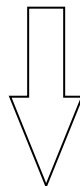
IV 事後の活動 (実践)



- ・集団決定したことは必ず実践
- ・役割を分担された子どもたちの、自主的・実践的な活動の見取り
- ・一人一人の行動や発言、グループごとの活動などの価値付け

- ・協力して達成したことの振り返り
- ・失敗体験や成功体験の経験
- ・次の活動への気付き

V 振り返り

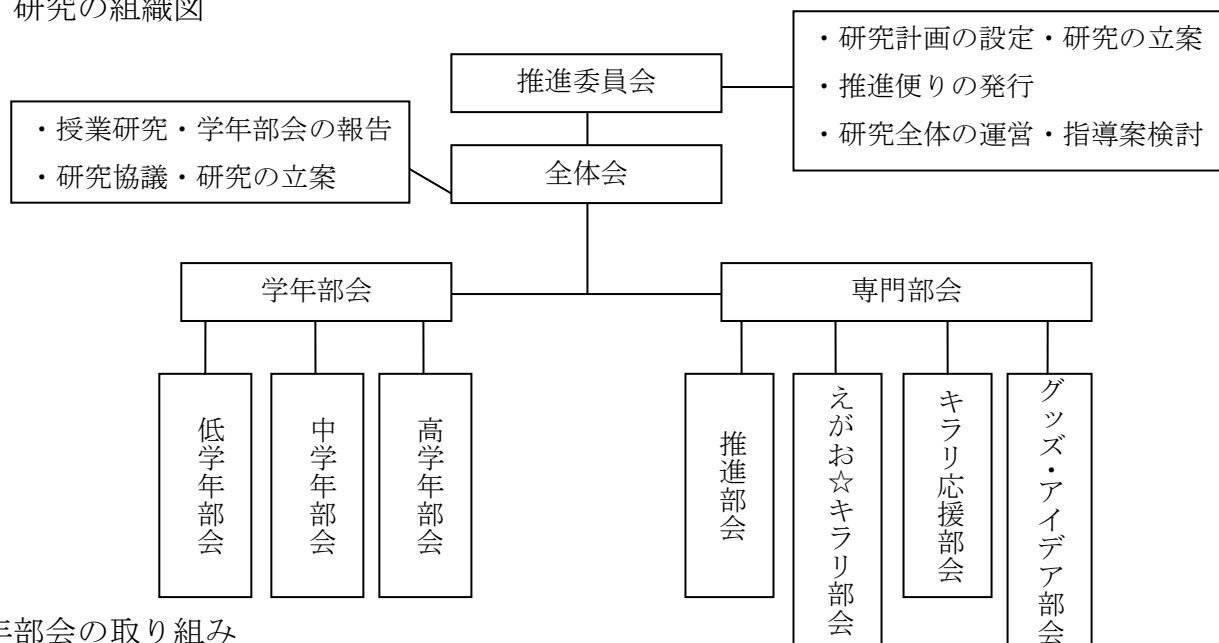


- ・喜びや悲しみ、達成感、充実感などを分かち合う姿の見とり
- ・クラスごとにクラスのあゆみの掲示
- ・次の活動への意欲付け
- ・掲示物（活動内容の紹介）の作成

- ・新たな学級の諸問題への気付き

I 議題の選定

5. 研究の組織図



学年部会の取り組み

低学年部会テーマ	中学年部会テーマ	高学年部会テーマ
自分の気持ちを伝えたり、 友だちの考えをよく聞いたりして、 仲良く活動する子	他者の考えを受け止め、 お互いのよさを認め合い、 気持ちよく協力できる子	他者の考え方を受け止め、 お互いのよさを理解し合い、 高め合える行動がとれる子

学年部会の取り組み：

- ・各学年の児童の実態の把握
- ・目指す子ども像の提案
- ・学級会の仕組みづくり
- ・授業研究に向けて、指導案の検討、修正
- ・子どもの活動の保存（写真・使用した教材・ワークシート 等）
- ・学級活動（2）の取り組み、年度終わりに向けてカリキュラムの見直し

専門部会の取り組み

推進部会	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の推進 ・指導ベースの提案 ・指導案の提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進便り発行 ・特別活動全体の運営
キラリ応援部会	<ul style="list-style-type: none"> ・キラリ目標のふり返り ・児童の変容、成果、課題のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・キラリ目標の掲示
えがお☆キラリ部会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事の写真、活動計画の掲示 ・各学年活動写真の集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会活動コーナーの設置
グッズ・アイデア部会	（学級活動、学校全体における） <ul style="list-style-type: none"> ・グッズの仕入れ、提案 ・特活コーナーの設置、管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動関係の書籍管理 ・各学級の教材集約